



福島みずほ
社民党副党首・参議院議員

「福島みずほ応援団」も全国で募集中！どなたでもなれます。ご連絡は阿部さんに。

議会と市民運動になくてはならない人 阿部さん、頑張れ！

阿部さんとは、放射能から子どもを守るため省庁交渉を、十数回、一緒に行いました。市民の声は自治体を動かし、松戸や柏などで甲状腺エコー検査を実現。阿部さんは、環境省の専門家会議の傍聴者排除を民主主義を踏みしめる行為と糾弾し、巧みな交渉と記者会見で見事に撤回させました。多くの人と連携し、活動を着実に前進させる力量は、本当にすばらしい。

阿部さんは、流山市議会と全国の市民運動に無くてはならない人。これからも、しなやかに、しぶとく、たくさんの運動とともにやっていきたいと思います。

平和と雇用が暮らしの根っこ

安倍政権は戦争する国に向けて大暴走。北朝鮮や中国やイスラム国の脅威が口実。しかし北朝鮮や中国も米国や日本の脅威を理由にあげて軍拡。イスラム国も米欧による支配や戦争を自己正当化の理由に。暴力には暴力を、というのであればそもそも政治家は要らない。憲法9条は、歴史の重い事実裏打ちされた人類の智慧。今こそ、憲法を守れの声を！

首相は雇用のルールの改悪も強引。残業代ただ働き、過労死に拍車かける高度プロフェッショナル制。正規を非正規に置き換え、格差と貧困を更に深刻化させる労働者派遣法の改悪…。

暮らしの根っこである平和と雇用を守るために、阿部治正は闘います！



2015 流山憲法集会

- お話 小森陽一さん
東京大学大学院教授
九条の会（全国）事務局長
- 5月17日（日）14時開会
- 流山市生涯学習センター
- 主催 九条の会・流山

社会新報 号外/流山版 1951年12月7日 第三種郵便物認可
2015年春号 週刊（水曜日発行）定価180円
社民党全国連合機関紙宣伝局
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3-7F
電話 03-3592-7513

聞きました 阿部はるまささんがめざす流山

●まちづくりの主役は市民

■「市民はお客」の言葉は、市民を尊重するように見えて、実際は市民を軽視する言葉。市民は単なる「お客」ではなく「主役」です。

■自治会・市民などとの協働は大切。しかし行政責任の放棄や市民への負担転嫁はだめ。市民の主体性が尊重され、イニシアチブを発揮できる仕組みづくりが欠かせません。

■施策の計画・実施・評価のあらゆる段階で市民の参加を保障する仕組みをつくります。

■ごまかしの「地方分権」でなく、権限と財源の移譲による「地域主権」をめざします。



●元気あふれる地域経済を

■地場産業やみどり（農業・環境・再生エネルギー等）といのち（医療・福祉・教育等）の経済、NPOや協同組合などへの支援を強め、地域内での生産物・サービスの循環を生みだし、経済活力あふれるまちをめざします。



■地域経済の主役である中小企業を守り、活性化させるため「中小企業振興基本条例」の制定をめざします。地元の中小企業・行政・市民・学生・金融機関などの連携と協働によって、新しい地域ビジネス環境の創出と起業の促進を図ります。

■自治体が中小企業の商品を購入・宣伝する「トライアル発注」導入、官公需法に基づく中小企業発注枠の拡大を図ります。

■若者・女性・障がい者への相談充実、安定雇用の確保で格差と貧困の拡大に歯止めをかけます。



●放射能対策しっかり

- 環境と食品中の放射線量の精密な測定、8000 ベクレル/kgを超えた指定廃棄物の徹底した安全管理をめざします。
- 放射能被害を隠すための、非科学的な安心・安全キャンペーンにくみせず、自治体の放射能リテラシーの向上を図ります。
- 真の安全・安心のため、若年者と子どもの健康調査、甲状腺エコー検査を実施します。
- 放射能汚染を再び発生させないため、脱原発社会をめざし、地域からの自然・再生可能エネルギーの普及を図ります。

●万全の子育て支援を

- 子育てに格差を生じさせる保育の市場化＝公的責任の後退を許さず、国の施策のマイナス面を無害化させる市独自の取り組みを強めます。
- 病後児保育の拡充、病児保育への取り組み、障がい児受け入れなど、様々な子どもと多様な家庭事情に応える体制をつくりまします。
- 保育職場内の交流・情報交換、研修機会を増やし、働きやすい環境をつくりまします。



●誰にも安心な高齢期を

- 介護保険の財源は、国と企業の役割の強化で解決するよう、自治体から積極的な発信をします。
- 在宅介護重視を理由に施設をおろそかにするのはだめ。施設と在宅の両者の充実と連携強化を図ります。
- 介護を担うボランティアやNPO等は、サービスの質を維持し、専門職との適切な役割分担を図ります。
- 介護職員処遇改善交付金の対象枠を拡大し、介護従事者の賃金アップを図ります。職場内の交流・情報交換、研修機会を増やし、働きやすい環境を整備します。



●バランスあるまちづくりを

- T×沿線開発は、地域全体のバランス、自然・住環境の重視、流山の独自の魅力（みどりや歴史や文化）を活かしながら進めます。
- 「市野谷の森」などのみどりの保全、失われた自然の復元に努めます。
- 「利根運河」「坂川」など市内河川の親水公園化、歩いて行ける場所に自然とふれあえる場や憩いの場をつくりまします。
- 大型施設建設など環境に大きな影響を及ぼす計画は、市民の同意の必要などの規制強化を図ります。



●学校間格差の解消へ

- おおたかの森小中併設校開校にともない発生する既存校との教育環境の格差は、生徒・保護者・教職員の意見を汲みつつ解消をめざします。
- 子どもを災害や犯罪から守るため、老朽化した学校の補修を迅速に行い、建替が必要な学校においては計画を早期に立案します。
- 貧困の連鎖を防ぐため、就学援助などを拡充し、ボランティア等の協力を得て補修学習などのサポートを実施します。

